

令和7年度第2回 町長タウンミーティング 開催結果
テーマ：「子どもは「まちの宝」～子どもまんなか子育て支援のこれから～」

12月5日（金）18：00～19：30 白老コミセン （参加者6名）

発言内容等
●「子育て環境（家庭・子どもたち）の状況」について
【参加者】 男性が育児に「参加」という考え方は以前に比べ少なくなり、男性の育児休暇の取得も増えてきているが、まだ職種によっては取得できない環境にあると感じる。
【町長】 育児休暇の取得含め、社会全体が男性の育児への参加は当たり前という考え方に変わってきているが、まだまだ足りない部分があると感じる。事業者の努力も必要ではあるが、町としても子育て環境改善に向けて一緒に取り組んで行きたい。
【参加者】 白老の子育て環境はすごく充実していると感じる。他の町の友人と話していても羨ましがられる。
【町長】 子育て環境については様々な場面で評価をいただきありがたく感じている。この環境の良さを発信していくことが重要と捉えている。しっかりと情報発信に努めたい。
【参加者】 育児に関する様々な問題は、しっかりと性教育が受けられていないことに起因しているのではないか。子どもたちに伝えていくことも重要だが、大人になってからの性教育が重要だと考えている。また、白老では就学を機に他自治体に転出する方多い。町として、「自分を大事に、他者を大事に」という性教育が受けられる環境を作ることにより、就学に伴う転出を防げるのではないか。
【町長】 触れにくい部分があるというイメージから、しっかりと性教育を受けられていない世代もいることを知り、ここは変化させていくべきものであると感じたところである。性教育が「自分を大事にする気持ち」「家族を思う気持ち」に繋がり、家族を持つことへの意識に繋がっていくのではないかと思う。改めて教育の重要性を感じており、その一つとして性教育があるものと捉えていることから、経済的な支援はもちろんのこと、平行して性教育を含む教育環境の充実を図っていきたいと感じた。
【参加者】 ここ2～3年でお父さんがすすくひろばに来ることが多くなったと感じる。また最近は妊婦さんの利用も増えてきた。出産後はどうしても外に出る機会が少なくなることから、出産前から繋がりを持つことによって出産後のフォローアップや早期の利用が促せることから、保育士からの声掛けを継続してほしい。
【参加者】 性教育について、自分自身がしっかりと知識がないために、子どもたちに対してどのように教えればいいのか分からない。もっと幼少期から、専門知識を有する方に性教育が推進されていくと良いと感じる。そのような環境づくりをお願いしたい。
【参加者】 過去には小学生や中学生が学級単位ですすくに来て、児童生徒が子どもたちや保護者と触れ合うことがあった。こういう時間が大切だと感じている。
【参加者】 少子化と子育て支援は切っても切れないものであるが、子育て支援を充実させたからといって必ず子どもが増える、人口が増えるという訳ではない。少子化はもっと複雑であると考える。様々な方の話やアンケート結果を見ると、子どもを産むことは経済面だけの問題ではないように感じている。
【参加者】 町内には様々な形で活動をされている団体が複数ある。幼稚園や保育園を含め、これら関係者が情報を共有し合うことが重要と考える。これら情報を町が一早くキャッチして情報発信してほしい。
【参加者】 様々な団体の連携が子育て環境の課題解決に繋がっていくのではないかと考えている。
【参加者】 学校と家以外に子どもたちの居場所となるような場所が町内に複数あるといいと感じる。
●「行政と一緒に取り組めること」について
【参加者】 保健師と連携し、妊婦さんとの繋がりを作っていきたい。今もやっているが、産前から繋がりを持っていることを話すと他の町の人から驚かれる。
【町長】 産後のみならず、産前からサポートできる体制と一緒に作ってほしいと思う。
【参加者】 教育機関との連携により、性教育を充実させたい。就学を期に転出する家庭がいる現状も踏まえ、性教育が就学後の白老の魅力の一つになれば転出者も減るのではないか。白老の規模だからこそできるもの。
【町長】 就学前のサポートについては皆さまのご尽力により非常に手厚いものとなっているが、実際に就学を期に近隣自治体へ転出する方がいるという話は伺っているところなので、独自の教育による魅力化も検討していきたい。
【参加者】 保健師や栄養士からは非常に細やかな情報共有をいただいている。これからも継続した連携をお願いしたいと考えている。自身の経験から考えると、幼児期から学童期になり、スポーツ等、習い事などで不便さを感じるのが現状としてあった。
【町長】 習い事においては、子どもがやりたくても、送り迎え等の親の事情により諦めてしまうことがある。行政において全てサポートできるわけではないが、足の確保など、子どもたちがやりたいと思ったことをやれる環境づくりを進めていきたい。
【参加者】 イベント開催時に、イベントに行きたいけど移動の足がなくて参加できない子どもたちが一定数いる。スクールバスを活用するなど、足の確保をお願いしたい。
【参加者】 日本のみの話ではないが、「子どもの人権」が軽視されている。親のみならず、子どもたちも自分の思いを主張できる場を提供することが必要ではないか。
【町長】 現在、中学校での特別授業など実施しているが、子どもたちが発言できる場所をもっと提供していきたいと考えている。
【参加者】 町内会、民生委員、幼稚園、保育園など、地域に根差した団体との橋渡し役を行政にお願いしたい。
●「最も課題と感じていること」について
【参加者】 専門職の人材が不足している。現状もギリギリの人数で回しており、サポートを断念せざる負えないこともある。人材確保が最も課題と感じている。
【参加者】 ありがたいことに様々な事業をやらせていただいているが、やはり足の問題により参加できない人がいる現状。子どもたちのみならず、高齢の方や外国人の方などがもっと参加できるような仕組み作りが必要だと感じている。
【参加者】 最低賃金の上昇など、社会情勢の変化に追いつけず、利用者さんの負担軽減を図れない状況であること。
  